



〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第77号 2011年12月1日

巡回展

特別展 文化庁・開催館主催

「発掘された日本列島2011」

岡豊山に全国から貴重な出土品が集合

会期 2012年1月2日(月)～2月14日(火)



◆東日本大震災の被災地からも出品

文化庁と開催館主催の「発掘された日本列島」展は、平成7年度より始まりました。毎年、全国で発掘される最新の発掘成果を巡回する展示会で、本県では平成8・16・21年度と開催され、平成23年度で4回目となります。

本年度は、6月に東京都江戸東京博物館を皮切りとして新潟市歴史博物館↓静岡市立登呂博物館↓九州歴史資料館(福岡県)をへて当館へと巡回していきます。

本年、3月11日の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)は歴史上、未曾有の大災害となり、多くの人命が奪われました。そのような震災の影響が残るなか、東京都江戸東京博物館で第1回の会議が4月の中旬に行なわれました。江戸東京博物館も震災の影響により一時休館とされ、地域展の開催は中止となり、地震の大きさをまざまざとみせつけられました。我々は地震後の博物館の状況を垣間みることになりました。

今年度出品された出土品の中に福島

県からの展示資料があります。河沼郡湯川村桜町遺跡(弥生時代)・南相馬市の史跡横大道製鉄遺跡(古代)の2件が含まれています。文化庁編「発掘された日本列島2011 新発見考古速報」の図録中で文化庁記念物課は「出展は不可能と思っておりましたが、福島県教育委員会から、できるだけ予定通り出展したいという声をいただきました」と記しています。

「埋蔵文化財とは土地に刻まれた地域の歴史そのものであり、地域の誇り(同図録)です。私たちも本展の開催が被災地の方々に少しでも希望をもたらし、地域の歴史や文化に関心をもっていたり、機会となればと思っております。今回の図録は、東日本大震災後に刊行されたもので、学史上貴重な図録となるかもしれません。

◆「発掘された日本列島」の展示資料から

今回の展示資料の中からいくつか紹介したいと思います。展示される遺跡は21遺跡、総数約520点となります。展示会場は、3階総合展示室となります。展示される遺物の年代は、約2万年

前の旧石器時代から近代の140年前までの出土品です。そして、文化庁が実施した奈良県奈良市の「特別名勝平城宮東院庭園」の発掘調査と保存整備事業についても紹介します。

旧石器時代

二万八千年前～一万四千年前の石器製作遺跡 鹿兒島県南九州市宮ノ上遺跡 薩摩半島の中央部の台地上に営まれた宮ノ上遺跡は、平成16・17年に調査

が実施され三万五千点以上の石器が出土、石器の素材となった頁岩の産地も確認されました。総数770個体以上の接合資料が出土しており、石器の技術や工程の解明、製作過程における遺跡内での人の移動も復元が可能とされています。



を剥いた片を宮ノ上遺跡に接合した資料

東北地方最北部で出土した細石刃石器群 青森県三沢市五川目(6)遺跡

五川目遺跡は、二万一千～一万七千

年前の東北地方の最北部に位置する細石刃を製作した遺跡で約1300点の遺物が出土しています。



細石刃核として使用した状況のわかる接合資料 五川目 (6) 遺跡

縄文時代

日本最古級の土偶 豊満な乳房をしたビーナス 大型竪穴建物跡からみつかる滋賀県東近江市相谷熊原遺跡

琵琶湖の東部の鈴鹿山地の麓に縄文時代草創期から晩期の集落跡、相谷熊原遺跡があります。縄文時代草創期後半の竪穴建物が5棟確認され、その1棟から高さ32cmの土偶がみつかりました。(写真左) 頂部には孔が穿たれています。2010年12月20日付『高知新聞』「考古学この1年」にも掲載されていたので記憶している方もあるかもしれません。わたしもその一人で「あの土偶だ」と声を出してしまいました。現段階での本州中心部の縄文時代草創



土偶 相谷熊原遺跡

期の土偶は、三重県松阪市粥見井尻遺跡、縄文時代早期初頭の土偶は三重県亀山市大鼻遺跡で発見されています。つまり発生段階の土偶が、本州の中心部の山麓の遺跡から出土しているのです。このことは土偶が作り出された背景をさぐる糸口になるかもしれません。

レモン形の土器を使う南九州の縄文人 鹿児島県曾於市定塚遺跡

定塚遺跡は、大隅半島の北部に広がるシラス(火山灰)台地上に営まれた縄文時代早期前葉(約一万年から九千年前)の集落跡です。約五万点の南九州を代表する土器、石器や石製品などが出土しています。南九州では短い煙



定塚遺跡の土器

とからついた名前です。破片で出土する例が多かったことから、最初はレモン形だとはわからなかったようです。いろいろな形の土器を使った南九州の縄文人、心の中をちよつとのぞいてみたい気がします。

日本海側の貝塚として縄文時代早期末の秋田県由利本荘市菖蒲崎貝塚の出土品が展示されます。現在、貝塚は2375ヶ所、日本海側の貝塚は43ヶ所が確認されています。この菖蒲崎貝塚は、日本海側では最も古い低湿地の貝塚なのです。なお、アサの実が付着した土器も展示されます。

弥生時代

ベンガラでシカを土器のキャンバスに描く 愛知県稲沢市一色青海遺跡

弥生時代では福岡県の史跡田熊石畑遺跡(パネル展示)、愛知県の一色青海遺跡・福島県の桜町遺跡の3遺跡を展示します。一色青海遺跡は、愛知県南西部の濃尾平野に営まれた弥生時代中期末の大集落跡です。竪穴建物約260棟、掘立柱建物約30棟、方形周溝墓



シカの絵画土器 一色青海遺跡

30基が確認され、この時期では東日本最大級の大型掘立柱建物や床面積50㎡の大型竪穴建物が多く見つかっています。この集落の最終段階の大型土坑から9cmの筒形土器が出土。外面に6頭の頭を右にしたシカが描かれています。全長3.1cmの土製垂飾りにもシカの絵が描かれています。また、赤彩カゴも出土しています。高知県香南市野市町兎田八幡宮の絵画のある銅剣(重要文化財)にもシカが3頭描かれています。会場で描き方を是非比べてみてください。

東北でいち早く西日本と交流をもった集落 福島県湯川村桜町遺跡

福島県会津盆地の中央部に位置する弥生時代後期の遺跡で、居住区と墓域で構成された遺跡です。遺跡からは、



桜町遺跡でみつかった弥生土器

東北南部地域の土器や北陸地域の土器、北関東地域の土器、特徴をもつ土器も出土しており、広い範囲で交流があったことがわかります。さらに、鉄などの木製農耕具や建物部材も

出土、西日本でみられる周溝墓も築造されています。

古墳時代

藤原京造営で壊された古墳群 力士形埴輪や埴丘に立てられた木製品も

奈良県橿原市四条古墳群

奈良県橿原市の奈良盆地南部に位置する古墳群です。5世紀後半から6世紀前半に造営されたもので、藤原京を造営する時に壊され、古墳の周溝のみ



力士形埴輪 四条古墳群



鳥形木製品 四条古墳群

が確認されています。古墳は12基あったことが確認されています。調査の結果、埴丘が壊された後にその土で周溝が埋められたことがわかっています。力士形埴輪や盾形埴輪、靱形

埴輪、円筒埴輪などが出土しています。コウヤマキ製の鳥形木製品や笠形木製品は、古墳の埴丘に立てられたものです。埋葬儀礼に用いられたと考えられる儀仗形木製品なども出土しています。

古墳築造から埋葬時にどのような木製品が使われたのかわかる古墳群です。他に滋賀県高島市の田中36号墳、そして男性の頭蓋骨からハエの蛹殻が検出され、殯という埋葬儀礼を考える上で貴重な発見のあった愛媛県史跡葉佐池古墳の出土品が展示されます。

古代 飛鳥時代の川跡から馬鋏が出土 富山県氷見市稲積川口遺跡



馬鋏 稲積川口遺跡

稲積川口遺跡は、氷見市を流れ富山湾に注ぐ余川川下流で見つかった7世紀前半の川跡を中心とする遺跡です。木杭と横板を組み合わせた護岸遺構からは、構築部材に用いられた馬や牛に引かせ代掻きをさせる農耕具の馬鋏、田舟とも推定されている把手付剝物槽などが出土、これらも展示します。古代では他に神奈川県茅ヶ崎市・寒川町の下寺尾官衙遺跡群、福島県南相馬市史跡横大道製鉄遺跡、京都府京都市法勝寺跡があります。史跡横

大道製鉄遺跡は、福島県の太平洋沿岸に位置する奈良から平安時代にかけての製鉄遺跡で、砂鉄が豊富にあります。日本最大級の鉄生産地帯で、約60トンの遺物が出土しています。なお、次頁に「相馬の古代製鉄遺跡」という一文を寄稿いただきました。

中世・近世・近代

中世では徳島県徳島市の大規模な護岸施設が確認された川西遺跡、新潟県糸魚川市の北条一門名越氏に関連する遺跡と考えられる山岸遺跡、東京都葛飾区葛西城跡、山梨県韮崎市隠岐殿遺跡の出土品を展示します。

近世では、瀬戸内から玄界灘の地域にみられる大坂城石垣石切丁場跡、近代では史跡佐渡金銀山遺跡を紹介いたします。



復元された東院庭園

特別名勝 奈良県奈良市 平城宮東院庭園

奈良時代の都、平城京の北辺の中央部にある平城宮跡には東方向に張り出した部分があります。この部分は天平勝宝(神護景雲年間(749~770年))には東院と呼ばれていました。昭和42年(1967)に庭園跡が発見され、発掘調査がなされてきました。この庭園遺跡は「平城宮東院庭園」と呼ばれ、8世紀の庭園文化を知ることのできる貴重な遺跡です。曲水の宴に用いられたと考えられる舟形木製品や土器も出



東院庭園の出土遺物

土しています。遺跡は平成5~12年にかけて修復整備されました。これらが発掘成果と「平城宮東院庭園」の2.7m四方の模型も展示します。(岡本)

相馬の古代製鉄遺跡

いわき地方史研究会会長 福島県考古学会理事 大竹 憲治

I はじめに

福島県の太平洋に面した浜通り地方は、さらに相馬地区、双葉地区、いわき地区の3地区に細分されています。これら3地区のうち、相馬地区（現在の相馬郡新地町・相馬市・南相馬市）からは、東日本でも最大規模を誇る古代製鉄遺跡群が発見されています。小稿では、筆者が調査しました新地町向田C・D遺跡と南相馬市鹿島区唐神遺跡を中心に当地区の製鉄遺跡について紹介します。

II 相馬の主要製鉄遺跡

a 向田C・D遺跡（第1図参照）
向田遺跡群（A～F遺跡）は、すべて製鉄遺跡です。1986年に発掘した向田C・D遺跡では、製鉄炉1基（1号製鉄炉）、木炭窯13基、住居跡5棟（工房跡含む）、廃滓場などが検出されました。特に製鉄炉（1号炉、9世紀後半）は、丸みを持った方柱状の半地下式堅型炉で外幅1.48m、内幅0.62m、深さが1.12mです。向田遺跡群を含む新



第1図 向田C・D遺跡1号製鉄炉（大竹・菅原 1987年）

これら、相馬地区の古代製鉄遺跡群には、住居風の工房跡も伴っています。向田遺跡群では、獸脚・錫杖・梵鐘の鑄型（向田A遺跡）が発見されています。したがって、当地区では、古代陸奥国北半の開拓に関わる鉄製農具用の鉄鋌ばかりでなく、

官營的性格の強い仏具を製作したアトリエとしての側面を有したと推定しています。

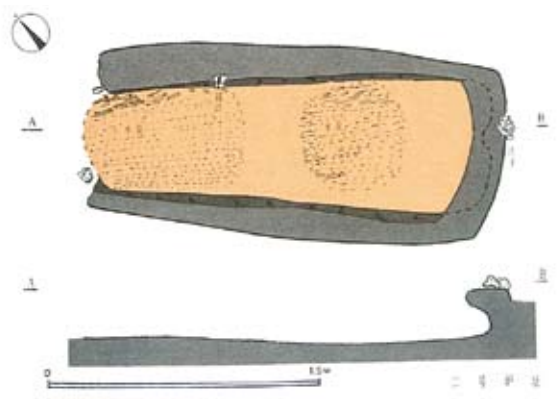
なお、南相馬市の国指定史跡横大道製鉄遺跡を含めた相馬地区の製鉄遺跡群は、原発事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所より北方へ30kmから50km圏内に分布しています。

参考文献
菅原文也・大竹憲治『唐神遺跡調査報告』鹿島町教育委員会（1980年）
大竹憲治・菅原文也『向田C・D遺跡 向田経塚』新地町教育委員会（1987年）

地町武井地区には、洞山遺跡・武井遺跡などの製鉄遺跡が密集しています。この、向田C・D遺跡からは、13点の鑄型（獸脚・錫杖・火舎胴部）が出土しています。

b 唐神遺跡（第2図参照）

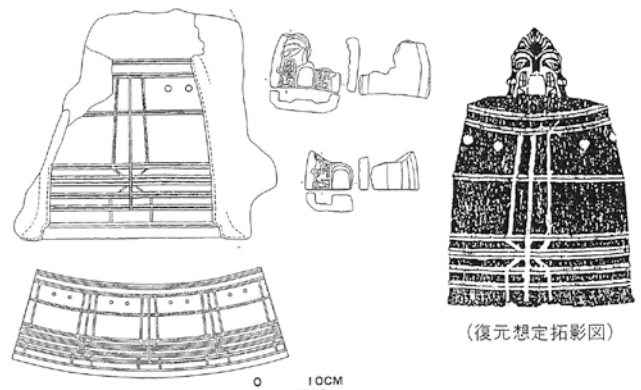
唐神遺跡は、唐神溜池底から菅原文也氏によって発見されました。踏査の結果、4基の製鉄炉を確認しました。このうち、1号製鉄炉が堅型炉、2号製鉄炉は長方形の箱型炉（9世紀前半）のタイプのもので、付近からは風字



第2図 唐神遺跡2号製鉄炉（菅原・大竹 1980年）

III まとめ

硯も採集されています。



第3図 向田A遺跡出土の梵鐘鑄型

特別展 「発掘された日本列島2011」高知の地域展示から

―土佐の地震と考古学― 考古学史上に残る四万十市アゾノ遺跡の噴砂跡

2012年1月2日(月)～2月14日(火)

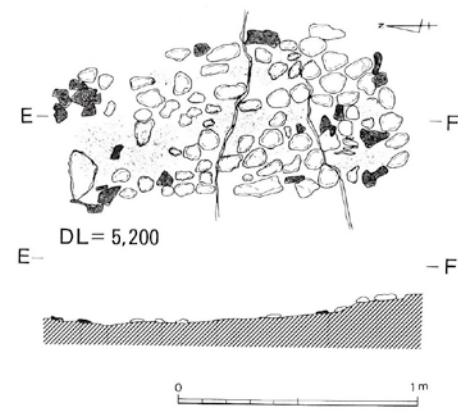
岡本 桂典

文化庁・開催館主催の「発掘された日本列島」は、各地の会場で開催地域の発掘調査に関連する展示(地域展示)を行なっています。今回は、高知県内の発掘調査で確認された南海地震跡などについて紹介、過去の地震の歴史を知ることの大切さを学びたいと思います。

1995年の阪神・淡路大震災は記憶にあたらしく、これ以後日本は活動期に入ったといわれています。高知県でも南海地震の発生が危惧されています。そのような中、2011年3月9日午前11時45分、三陸海岸南端沖合で地震(M7.2)が発生、その2日後の11日午後2時46分、M9.0という経験したことのない地震、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生しました。震度6〜7という揺れが2分以上も続き、巨大な津波が東北地方から関東の太平洋岸を襲い、言葉ではあらわせないほどの甚大な被害をもたらしました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所が大津波に襲われるという歴史上に大きな刻印を残す事故が発生、多くの住民の方が避難を余儀なく



噴砂と配石遺構 四万十市アゾノ遺跡



上の配石遺構を走る噴砂跡2本の実測図(四万十市アゾノ遺跡)

されています。そして、この地震による原発事故は、世界中の原発に大きな問題を投げかけることになりました。

さて、過去の地震については、文書や金石文に記録が残されていることはよく知られています。では、遺跡の発掘調査では地震の痕跡は発見されていたのでしょうか。発掘調査で地震の痕跡が知られるようになったのは1986年以降のことなのです。滋賀県高島市北仰西海道遺跡で現産業

技術研究所招聘研究員の寒川旭氏によりはじめて噴砂(縄文時代後期)が確認され、その後関心が向けられるようになりました。寒川氏は、遺跡から検出されていた地震の痕跡に注目し、1987年「地震考古学」を提唱、これが嚆矢となり各地で地震の痕跡が確認されるようになったのです。

西日本の太平洋側には、プレート境界である南海トラフがあり、ここで破砕が生じることにより巨大地震が発生するとされています。

南海地震などの記録は江戸時代は史料が多くみられるものの、それ以前となれば極めて少ないのが現状です。

明応7(1498)年に東海地震が発生したことは知られていましたが、南海地震が発生した痕跡は確認されていなかったのです。ところが1988年8月、四万十市(旧中村市)のアゾノ遺跡を発掘調査していた高知県教育委員会の松田直則氏は、その地震による砂脈を発見、寒川氏に連絡し、南海

地震の噴砂跡と確認されたのです。砂脈は配石遺構(上写真)も引き裂いていました。この配石遺構は遺物より14世紀後半から15世紀前半に想定されています。そして、噴砂は15世紀の終わり頃の生活面まで及んでいました。さらに、遺跡の集落は15世紀後半には終焉していたのです。この遺跡で確認された噴砂は、史料では不明確であった巨大地震、南海地震の存在を明らかにした考古学史上に残る大きな発見だったのです。そして伴う土器の編年にも重要な視点を与えてくれたのです。

今後の発掘調査では、噴砂などの地震の痕跡を意識した調査が望まれます。その成果は地震や津波からの被害をさける手助けとなると思われます。

参考文献

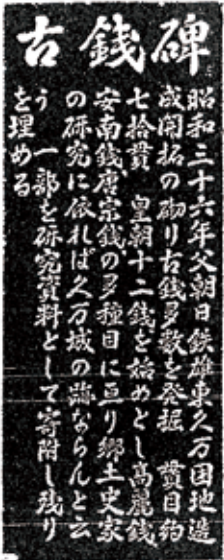
- 高知県教育委員会『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 風指遺跡・アゾノ遺跡』1989
- 寒川旭「遺跡が語る巨大地震の過去と未来」『Synthesiology』2-2 2009
- 寒川旭『地震の日本史』2011

考古

遺跡現場100回

今回は連続で掲載しています「岡豊山の遺跡」は、お休みとさせていただきます。

テレビ番組で刑事が事件の捜査をする時に、「現場100回」という言葉を聞かれたことがあると思います。実は考古学の世界も同じです。『岡豊風旦』第75号の「歴史ニュース」で「収蔵資料の調査高知市東久万出土の銭貨約7万枚の再調査と整理」と題して一文を書いたところ、出土地を再調査したというご連絡とともに、その報告文を頂きました。念のため当遺跡の所在について確認したところ、高知県教育委員会の平成4年3月の『高知県遺跡地図―土佐・吾川ブロック―』には消滅した遺跡のためか記載されていませんでした。報告文によると平成5年5月に秦史談会のメンバーが、出土地を確認しています。さらに、左記の「古銭碑」が建てられています。さらにも明らかにされているのです。この碑は、昭和38年（1963）8月に発見者の息子さんの朝日寿男氏により建てられています。まさに、土佐の考古学史の一齣（ひとま）を見るようでした。また、そこから新たな情報を得ることができました。（岡本）



東久万の古銭碑拓本
『秦史談』第55号より掲載

歴史

評価される企画展図録

当館は年に3、4回の企画展を行なっています。しかし、以前は必ず刊行していた企画展の図録が最近では作られなかったり、薄っぺらのパンフレット程度という寂しい状態が続いています。

図録は、担当学芸員が調査・研究した成果をふんだんに盛り込んだこだわりの本であり、一種の学術図書だと個人的には考えています。

私の関わった図録で最も思い出深いのは、「絵葉書のなかの土佐」展の解説図録です。これは明治以降に製作された古い絵葉書から、移ろいゆく世相を切り取ることを目的としたものでした。展示では、絵葉書に使用された100年前の県内の風景写真を現在と比較対象させることを柱に据えました。

この困難な作業を前に、私は迷うことなく民俗分野の2人の学芸員に応援を頼みました。聞き取り調査やこだわりの写真撮影など、歴史系の私などが諦めてしまいがちな仕事を実に粘り強くやってくれました。この図録は歴史と民俗という2分野の協業の成果として生まれた図録なのです。（野本）

本図録は、郵便事業株式会社より、企画展図録に対しては異例の特別賞が授与されました。また、国立国会図書館月報596号、「本屋にない本」コーナーでも紹介されました。



民俗

郷土玩具を伝える

この度、平成24年の年賀切手に高知県の「土佐和紙雁皮張り子 龍」が選ばれました。年賀切手には昭和29年（午年）の福島県の三春駒から毎年のように郷土玩具がとりあげられています。

高知県からは平成3年に羊土鈴、平成6年に闘犬が選ばれています。いずれも「香泉人形」です。香泉人形は、山本香泉さんが戦後作りはじめました。当館では、山崎茂さんから昨年ご寄贈いただいた郷土玩具コレクションをコーナー展「十支の玩具辰」で展示しており、香泉人形も紹介しています。道成寺伝説に材をとった「釣り鐘土鈴」をはじめ色彩やかで造形がユニークなものばかりです。

来年の年賀切手の龍張り子を作っている草流舎は、土佐民芸店とともに香泉人形の復元に取り組んできました。そのご努力と作品の魅力が今回の選定につながったのでしょう。11月23日には、草流舎の田村多美さんを講師にお迎えしてワクワクワーク「龍張り子の絵付」を行いました。こうした体験講座は、郷土玩具に親しんでいただく良い機会です。

今後も展示や体験講座で、郷土玩具の魅力をお伝えしてゆきたいと思えます。

（中村）



とぼけた表情がかわいい龍張り子。草流舎作。当館受付で販売中。

まほろばカルチャーウォーク (国府・久礼田コース)

11月6日に開催されたカルチャーウォークは、国府の貫之時代絵巻の見学から始まり、新しく整備された久礼田城跡へ登りました。

久礼田地区は史跡の整備・保存、そして活用する活動に力を入れています。地区の方々が山道の草を刈り、歩道を整備し案内板も立ててありました。当日は久礼田史談会の方々に解説ガイドを行っていただきました。写真はガイドさんの後ろを参加者が久礼田城跡の詰に登っているところです。カルチャーウォークは四季折々に、県内各地の史跡を中心に宅間館長のガイド解説で巡っていますが、時折県外へも足を伸ばして開催しています。開催前には当館HP等でお知らせをしていますので、ぜひ機会があればご参加下さい。(猪野)



コーナー展 干支の玩具 辰 2011.11/12より12/18



山崎茂さんに昨年ご寄贈いただいた郷土玩具コレクションの中から竜の玩具を約100点展示しています。宝の玉を握った竜や弁財天を乗せた竜、船に彫られた竜など全国各地の竜の玩具が勢揃いしました。張り子の首を振る竜やかわいい音がする土鈴、車付きの木地玩具など、素材を活かしたさまざまな工夫がみられます。また、産地や作り手による違いなども、ご来館の皆さんにお楽しみいただいています。干支の玩具展は、山崎さんが高知市民図書館で毎年展示され、その後、草流舎に引き継がれました。当館も長く続けていきたいと考えています。(中村)

れきみんニュース

ピンホールカメラをつくらう

「土佐を撮る 田辺寿男の民俗写真3」の関連企画としてピンホールカメラづくりを10月30日に行ないました。武吉孝夫さんを講師にお迎えし、作り方や構造を教えてくださいました。武吉さんの写真仲間の小林勝利さんもバックアップしてくださいました。8名の方が参加し、銅板に穴を開けるところなどを体験されました。カメラが出来ると、早速撮影です。曇りだったのでシャッタースピードは20分前後でした。その後、暗室で焼き付けましたが、段ボールのカメラなのに、よく写っていました。カメラの原点にふれる楽しい一日でした。(中村)



ピンホールカメラで撮影 (イスののっているのがピンホールカメラ)



ピンホールカメラで撮った写真

長宗我部元親と土佐の戦国史跡巡り

「二條家と土佐七守護ゆかりの地を訪ねて」

今年9月から始まった新しい企画で、土佐の戦国史跡を訪ねて各地に埋もれている歴史遺産にスポットを当てよう!というコンセプトで行っています。今年度は各地を訪ね代表する城跡を巡ります。

この時代(戦国時代)の城跡はほとんどが山城で、戦いに備えて険しい場所にあるため、見学に行くのも大変ですが、地元の方々が遊歩道を整備したりして協力をしてくれています。

合計8ヶ所を巡りますが、既に全行程が満席となるほどの評判を呼んでおり、このために現在は来年度4月以後のツアースケジュールを組立中です。今回参加出来なかった方はぜひお申し込み下さい。(猪野)



津野町 姫野々城跡巡りの写真

新年のご案内

平成24年**1月2日**(月)より開館します。
 新年もイベントをご用意しております。
 皆様のご来館をお待ちしています。



図録のご案内

文化庁編

『発掘された日本列島2011 新発見考古速報』図録

(B5版 カラー72頁 朝日新聞出版)
 1,700円 販売中
 当館受付で販売しています。



お知らせ 臨時休館等について

3階総合展示室は特別展「発掘された日本列島2011」の展示と館内メンテナンス及び常設展示復元作業のため下記の期間、臨時休館・年末年始休館・臨時閉室します。なお、臨時閉室の期間は2階長宗我部展示室のみ見学できます。また、1階企画展示室は、ケース修繕のため今年度中は閉室としております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



- **臨時休館** (展示替えと館内メンテナンスのため)
 2011年12月19日(月)～12月26日(月)
- **年末年始休館**
 2011年12月27日(火)～2012年1月1日(日)
- **3階総合展示室臨時閉室** (展示替えのため)
 2012年2月15日(水)～2月21日(火)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第77号
 平成23年12月1日
 編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
 〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
 TEL 0888-862-2211
 FAX 0888-862-2110

開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 年末年始12月27日～1月1日
 臨時休館あり

観覧料
 通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円
 (企画展)常設展示込500円・団体(20人以上) 400円
 高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
 Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成24年 1月～3月の催し

特別展

発掘された日本列島2011

2012年1月2日(月)～2月14日(火)

全国的に注目された発掘品の数々、本年度は東京都江戸東京博物館を皮切りに、新潟市歴史博物館、静岡市立登呂博物館、九州歴史資料館と巡回、最後に高知にやってきます。高知には、お正月に巡回してきます。全国から新発見の出土品が岡豊山に集結します。地域展「土佐の地震と考古学」も同時開催します。お正月は、特別展「発掘された日本列島2011」に初詣をしてみたいかでしょうか。 観覧料500円



講演会

●電話・メールで申込(定員各140名)

平成24年1月14日(土) 14:00～16:00

講師:文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 近江俊秀先生
 演題「発掘された日本列島2011」

平成24年1月28日(土) 13:00～15:00

講師:東京文化財研究所保存修復科学センター 副センター長 岡田健先生
 演題「東日本大震災と文化財レスキュー」

平成24年2月4日(土) 14:00～16:00

講師:国文学研究資料館 准教授 青木睦先生
 演題「東日本大震災における被災文化財等の救助・復旧活動」

展示室トーク

●予約不要(講師:担当学芸員)

1月8日(日) 13:00～14:00

2月11日(土) 13:00～14:00

※上記の催しは全て観覧料が必要です

ワクワクワーク

- 1月2日(月) 10:00～12:00
 「昔あそび」(コマまわしやおはじき、あやとりなどをします。)



- 1月9日(月・祝) 10:00～12:00 ※電話等で要予約
 「^{いがた}鑄型を使ってミニチュア龍馬像を作ろう」
 定員30名 材料費1,000円
- 2月5日(日) 10:00～12:00 ※電話等で要予約
 「^{こぼく}琥珀で^{まがたま}勾玉を作ろう」 定員30名 材料費840円

コーナー展

おひなさま

2012年2月22日(水)～3月25日(日)

郷土玩具のおひなさまや
 大正時代の華麗な内裏
 雛、昭和の段飾りなどを
 展示します。



つやぎき 津屋崎人形(福岡県)